

# そうぜんじ便り

19世 俊諦和尚筆

第164号

令和8年春彼岸号  
臨濟宗 宗禅寺  
建長寺派  
住職 高井正俊  
住職補佐 高井和正  
羽村市川崎2-8-20  
TEL 042-554-1276  
FAX 042-578-3525

春のお彼岸を迎えます。お墓参りをして手を合わせると自分との命の繋がりを感じれます。恒例の春の文化展も開催致します。今年の特別展は羽村に産まれ羽村で育ち、羽村で創作活動を続けてこられた並木恒延さんの回顧展を開催致します。作品を所蔵されている個人様にも多大なるご協力をいただきまして実現致しました。墓参の折にお立ち寄りいただき、味わって下さい。

令和八年三月二十日(金・祝)〜二十二日(日)

午前10時〜午後4時(最終日3時) 観覧無料

## 第二十四回 春の文化展

【特別展】並木恒延回顧展

木工芸 五十嵐誠さん 気球の写真 菊田明理さん

【追悼展】白磁 副島泰嗣さん

【地域の皆様による一般展示】

写真・絵画・書道・篆刻・オリジナル新聞・パッチワーク・陶芸・能面・活け花  
フラワーアレンジメント・水墨画・彫金・押し花・写真・フィッシュモデル 他多数展示

※春彼岸早朝坐禅会・三月十七日(火)〜二十三日(月)毎朝六時〜七時開催致します。

※お彼岸の付け届けは同封の封筒の通りです。ご協力お願い致します。

※羽村や西多摩の文化に触れる土曜講座を毎月開催しています。背表紙に詳細がございます。

ご参加お待ちしております。

※新奥多摩街道駐車場にて劇団身体ゲンゴロウが六月に公演を行います。

今年の花祭りはフラメンコライブを開催致します。

【お釈迦様の誕生を祝う

フラメンコライブ】

日程 四月五日(日)  
時間 開場 十三時半  
開演 十四時

入場料 千円にて

※要事前申込

入場料は当日受付

### 〜 式次第 〜

- イス坐禅
- 花祭り法要 般若心経唱和
- 鎌倉流御詠歌を一緒に
- フラメンコライブ

出演 バイレ(踊り) 小林伴子 他

ギター 山崎まさし

カンテ(歌) 西 容子

※詳細は同封の別紙にて

二月三日  
節分追儺豆まき会  
御報告



立春節分にあたる二月三日に恒例の豆まき会を開催致しました。

立春の節分は旧暦においては新しい年の始まりとされており、新年の無病息災や五穀豊穡などを祈願する日でもあります。豆（魔滅）を投げて鬼を払い、この一年の安寧をお祈り致しました。



ご来場いただいた全てのお子様も壇上から豆を撒きます。

また、薬師堂では追儺の祈願法要を執り



本格的な鬼さんのお面は能面師の新井達矢さん作の貴重なお面です。

行い、総代さんや年男・年女の皆様と般若心経を唱和致しました。

宗禅寺の節分会では、来山いただいた全体的にお子様も壇上から豆まきを行います。豆まきの後には一人一人にお菓子を渡し、お帰りになる時にご家庭用の豆もお配りしております。また、富くじによる景品もあり、お薬師様からのプレゼントを両手に一杯にしてお帰りになれる方もおられます。

開催にあたっては午前中から準備が始まりますが、諸々の準備を総代さんをはじめ、薬師講やサンガの会の皆様方が担って下さっており、深く感謝を申し上げます。

また、節分にあたって、お薬師様の木札をお求め下さった皆様にも御礼申し上げます。

新しい一年が良い年となりますよう、ご祈念申し上げます。

“リアルてらこや”開催中

【らいむぎハウスから皆様へ】

ボランティアスタッフ

内田 裕子

節分をすぎると、厳しい寒さが終わり、少しずつ春の訪れを感じます。

リアルてらこやでは、宗禅寺をお借りして活動ができることに心より感謝申し上げます。

さて、リアルてらこやも新年を迎え活動をスタートしました。

一月の活動は、寒中の厳しさが身に染み、氷が張る朝でしたが、そんな寒さを忘れるような、冬の楽しいひとときを過ごしました。

幸いにもその日は風がない絶好の日和。日中は日差しが暖かく、穏やかな陽気に恵まれた一日となりました。

朝は、シャボン玉の講師を招いてのワークショップを開催。講師の手によって作り出される色とりどりのシャボン玉が冬の空に舞い、子どもたちの歓声が上がりました。中には見上げるほど大きいシャボン玉があり、太陽の光を浴びてキラキラと輝きながら、



青梅在住のシャボン玉アーティストの方が境内でシャボン玉をたくさん飛ばしてくれました。

ふわふわふわ冬の澄みきった青空に浮かんでいました。その幻想的な光景のシャボン玉を、子どもたちは夢中になって追いかけてました。そばから見ている心が和む幸せな時間でした。

また、午前中に餅つきの行事も行われました。若和尚さんとスタッフ若手2人が威勢よく「よいしょー！」と声を上げ、その活気に誘われるように、子どもたちも一生懸命べつたんべつたんしていました。自分たちでついたお餅の味は、きつと格別だったことでしょう。

お餅と一緒に振る舞われたのは、スタッフさんが作ってくださった豚汁です。温かい一杯が冷えた体に染み込みました。みんなの笑顔があふれる中、お餅も豚汁もみんなで完食しました。



お餅つきは、若いボランティアさんが頑張りました。

心温まるお餅つきとなりました。

てらこやには多くの子どもが来ています。黙々と遊びに熱中する子、黙々と宿題に取り組む子、黙々とお料理する子、思い通りにいかないけど、どうしたらより楽しく遊べるか、みんなそれぞれ自分で考え、自分で決め、自分で行動し物事に取り組んでいます。

分からないことがある時は、AIに聞けばすぐに答えがわかる現代ですが、子どもたちは想像力を働かせ、自分で考え自分なりの解を見つけ行動しています。SNSやAIがどんどん生活に入ってくる時代ですが、子どもたちを見てみると、まだまだ未来は頼もしいなと感じるてらこやでの時間です。



料理はおよそ100人分。台所に活気みなぎっています。

そのようなてらこやは、今年、四月から特定非営利活動法人としての活動がスタートする予定です。

法人では、今までどおり全ての子供たちが安心して学び、成長できる居場所を地域とともにつくることを目的として、子供たちの支えになる活動を行い、地域に貢献することを続けてまいります。

ボランティアの皆さまや地域の皆さまのご協力があつての活動です。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

## 彼岸をむかえて — 禅寺と掃除 —



お彼岸を前にして、禅寺と掃除について考えてみました。

宗禅寺は完璧とまではいきませんが、まあまま掃除の出来ている寺だと思えます。この寺の掃除、清掃がどう行われているかといえば、現在は私が朝、テレビ体操を終わった時に、ほうきとちりとり、ごみ袋をもって建物の周囲を一回りし、気がついた掃除を二十分しています。春は春、夏は夏、季節にそった掃除です。ふき掃除は必要に応じて寺族がやっています。

特筆することは、寺では定期的に護持会、葉師講の方々が、彼岸・お盆・歳末に四回、二十人ほどで奉仕活動としてお墓の枯れ花や古い塔婆を片付け、皆さんが気持ちよくお墓参りできるようにしてくれています。又、ボランティアとして、檀家の奥さん方が何人か来て、自主的に掃除をしてくれています。最近、写経の会や坐禅会に来て下さる方が、会の前に

境内の清掃をして下さってもいます。そのおかげで、境内はとても綺麗になりました。建物の中は寺族の手によって掃除をされています。そして、法要の後は飲食を提供してくれた業者さんがきれいに清掃をして下さいます。トイレまでしてくれまので、大助かりです。

専門的な境内の清掃管理は、檀家の島田弘さんが去年まで週三回、寺に来て美化作業をして下さっていました。お墓のすみからすみまで、側溝の中まで、目配りして下さいましたので、安心でした。残念なことに去年、高齢を理由におやめになり、今は専門に取り掛かってくれる人はいません。又、門前の横田信夫さんは散歩しながら駐車場の草取りや手入れをして下さっていました。今は体調を崩され、これも不可能になっています。横田さんがしてくれていた銀杏の収穫、洗い、日干しの大手間作業は和正和尚が引き継いでくれて、どうにかなっています。専門的な植木仕事は国立の星野造園さんが折を触れて来てくれ、手入れをしてきています。

お寺はこうしたたくさんの方々のおか

げをいただいで、どうにか禅寺らしさを保っています。禅宗の修行は日常の生活全てが修行ですので、掃除はお手の物とはいえ、毎日毎日きれいにしていくことは大変です。皆さんもお寺に来たら、そつとそういうことにも目配りをして下さい。皆さんのお墓は、皆さんの手で綺麗にして下さい。墓や植木にも注意を払って、ご自分で手入れをして下さい。そして、ごみはお持ち帰りをお願いします。

宗禅寺 正俊 記

### 宗禅寺観音募金

令和7年12月17日～令和8年2月24日まで

皆様からの募金、お賽銭をこのように使っています。ご協力ありがとうございます。

繰越	24,000円	
収入	53,000円	除夜の鐘と正月
	84,000円	上記以外の賽銭
支出	100,000円	
内訳	20,000円	羽村市社会福祉協議会 様
	20,000円	西東京臨済会災害支援部 様
	20,000円	らいむぎハウス(リアルてらこや) 様
	20,000円	あしなが東日本大震災遺児支援募金 様
	20,000円	あしまウクライナ友好協会 様
繰越	61,000円	

『羽村市史』は本編、資料編を含め現在までに七冊の本を発行し、令和八年度中には最後の『羽村市史本編下巻』の刊行が予定されています。

『羽村市史』は、昭和四九年（一九七四）に発行された『羽村町史』以降、新しい資料の発掘による研究成果や補完すべき事項の追加など新しい視点で郷土の歴史を掘り起こすことが期待されています。『羽村町史』は、このことからその基本となる重要な役割を担っているわけです。

この『羽村町史』の編集専門委員長を務められた方が、川崎在住の河岡武春氏でした。河岡氏は、昭和二年（一九二七）山口県下関市生まれ。昭和二七年（一九五二）広島文理科大学文学部国史学科を卒業し、日本常民文化研究所に入所しました。日本常民文化研究所は、昭和一七年（一九四二）に渋沢敬三により設立された民具、民俗資料の収集・研究を行う民間の研究所です。

昭和二四年（一九四九）、日本常民文化研究所は水産庁の委託を受けて、月島の東海区水産研究所の一室に奇遇し、そこで河岡氏は漁業制度資料の収集事業に従事しました。昭和三〇年（一九五五）になると委託費が削減されたため、この事業に携わっていたグループは解散しました。河岡氏は昭和三二年（一九

五六）に財団法人林業金融調査会に転出して、その後七年間は林野庁の委託費による林業関係の調査を続けていました。

昭和三八年（一九六三）、河岡氏は元の日本常民文化研究所に復帰しました。昭和四四年（一九六九）から昭和四九年（一九七四）まで『羽村町史』編さんに携わりました。その後、民具研究の月刊誌『民具マンスリー』の創刊や日本民具学会の創立に尽力しました。

昭和五七年（一九八二）、日本常民文化研究所は神奈川大学に移管され、河岡氏は神奈川大学経済学部教授に就任します。同年齢の友人であった歴史学者の網野善彦氏は、河岡氏の晩年について、次のように語っています。

「彼は神奈川大学に移管されるまでの日本常民文化研究所を十年以上ほとんどひとりでささえておられ、その心労からか、一九八二年、神奈川大学に常民文化研究所が招致され、教授としてはじめて経済的に安定されたにもかかわらず、長年のお疲れのためだと思えますが、一、二年間でほとんど講義ができない状態になってしまい、四年ほどで一九八六年には亡くなられてしまったのです。」

また、日本常民文化研究所の月島分室で河岡氏とともに従事していた二野瓶徳夫は「河岡は歴史学徒、民俗学徒であり続け、その面から漁業史研究の上で注目すべき業績と問題提起を残した。」と述べています。

河岡氏の漁業史研究では、大学在学中から能地漁民の調査研究を進め、近世の漁業と漁

村が成立していく過程を説明することに生涯を通じて専念しました。

能地とは広島県三原市に属する漁村で、古くから家船えかふねの漁民の出身地として知られていました。家船とは、船を住まいとして家族と居住し、漂泊しながら漁業や行商を行っていた漁民のことです。船には生活道具、食料品や水、燃料などが積み込まれ、一年のほとんどを船で暮らしていました。漁法は小網漁を主としていたため、それほどの漁獲高はなく、漁獲物を寄留する場所で穀物その他の生活用品と交換できれば足りたのでした。

河岡武春氏に小生が最初にお会いしたのは、高井正俊住職の紹介で河岡氏のご自宅でした。小生がまだ大学生でしたので高井和尚も一緒であったと思いますが、二〇畳もある部屋に通され、左右にはたくさん書籍が並ぶ立派な書齋でした。当時なにを話したのか忘れてしまいましたが、それ以降小生も『羽村町史』のお手伝いをするようになりました。

河岡氏は「私は九年前に、友人のすすめでこの町に移住した他所者である。」と『羽村町史』のあとがきに述べられています。河岡氏が亡くなられたあと、ご家族は転出してしまいい、河岡氏のような日本でも有数な民俗学者がこの川崎にいたことを知る人もいなくなりました。

#### 《参考文献》

網野善彦「『忘れられた日本人』を読む」  
二野瓶徳夫「河岡武春著『海の民』」  
〔漁業経済研究〕第三三巻第四号『羽村町史』

# 寺門清風 正俊記

●春のお彼岸になりました。梅が咲き、桜が咲き、お祭りも近づいています。太陽の光をあげ、草木の緑に癒され、春を大いに楽しみましょう。お墓参りも忘れずに。日々感謝の気持で！

へ一月へ

- 大晦日の除夜の鐘撞き、三五〇人の来山でした。甘酒接待、絵馬提供、薬師講の皆さんで焚き火供養。気持ちよく新年を迎えました。 1/1
- 御年始に来て下さる方が元旦より一月一杯続きました。
- 水族館劇場の方々が境内で路上芝居「蟻の街物語」を演じてくれました。百人の観客。暖かい日でした。今年で五年目になります。 1/3
- 寺の総代さんに年始。他の方々は郵送での年頭挨拶。今年もよろしく 1/4
- 総代さん新年会。永年お世話になった島田弘ご夫妻ご招待。 1/6
- 午前中、リアルてらこや、大人・子供大勢でおもちつきなどなど。午後からは一部平家の平曲。夕方七時半から坐禅会。今年も始まりました。 1/10

○朝坐禅会始まりました。毎回、数人ですが。午前法事、午後は写経の会十六人。平曲二十人。皆さん元気です。 1/11

○本堂でSB(サウンド・バス)睡眠によるリラクゼーション。 1/16

○一月土曜講座。イス坐禅・お経。川崎で三味線教室をしておられる藤本弥尾地さん方で、お寺で初めて三味線を聴かせていただく。菊地玉雲さん朗読劇「槍の小輔」大変な緊迫感。 1/17

○薬師講新年会。本堂で。坐禅・お経。皆さんから一言ずつ挨拶。皆でアッコウ鍋をつつく。今年も始まり 1/18

○湯島・麟祥院で臨済録勉強会。横田南嶺老師、小川隆先生。 1/19

○佐々木石材、川嶋さん等でベトナムの現場確認。いよいよです。 1/20

○趙方任さん訳の『中国式離婚』読了。中国の社会を学ぶ。写経の会、伊村さんがほぼ毎回境内のお掃除をして下さる。 1/21

○みんなの家で「健康体操」 1/22

○大船で森下一先生の一周忌供養の集まり。鎌倉てらこやの設立発起人。今日の土曜日は、坐禅会、木彫教室、新聞サロン、PTA集会、法事ととんでもない忙しさ。 1/24

○てらこや委員会新年会。ぎりたんぼ鍋で毎回決まっています。八人で。 1/25

○水曜リアルてらこや、裏のみんなの家で、勉強・遊び・食事。 1/28

○鎌倉禅研究会。今回は円覚寺さんで小川隆先生と横田老師。八十人 1/29

○月末にはうどん教室が二チーム別々に客殿で開催。皆さん上手になり、毎回おいしいうどんを賞味。 月末

●一月も皆さんのおかげで、寺の活動が活発に始まりました。建物も境内も皆さんに使っていただいて、嬉しそうです。

へ二月へ

○第一日曜日は、朝六時から、鐘撞き・坐禅・朝粥の坐禅会。生きていることを毎回実感しています。毎回十人程で、どうぞお出かけ下さい。予約不要です。そして、一の付く日の写経の会、三時から春の文化展実行委員会。淑子さん節分の諸準備。 2/1

○節分前日。台所の支度、大忙し。加藤さん小暮さん北原さん来て下さる 2/2

○節分。サンガの会三十四人。薬師講四十人。午前の支度と午後からの豆まき。順調に始まり、八時半には全て終了。今年も沢山の子供たちや、田村議員、井上議員も来てくれました。関係者含めて三〇

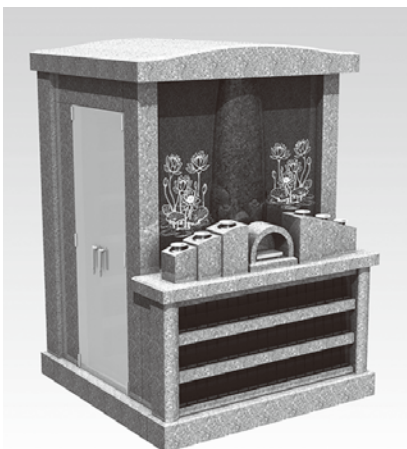
- 人の参加 2/3
- 節分片付け。女性陣と薬師講で。青年会議所の歴代理事長長会、石川酒造で。年寄りから若年まで三十人。2/4
- 鎌倉禅研究会で建長寺へ。館隆志先生、岩間眞知子先生の名講義、あたたかひものを感じます。六十人。2/5
- 寺では第一第三木曜日の寺ヨガ。本堂で皆さんとても熱心。2/5
- 麟祥院臨済録勉強会。小川先生、横田老師、夕食会は欠席。2/8
- 虎ノ門病院にて大腸の検査。異状なし。ホツとします。ミスミ建設来 2/10
- 写経の会、十七人の参加。2/11
- 鎌倉建長寺僧堂の修行仲間、三夫婦で箱根の温泉で静養。2/12〜13
- リアルてらこや午前中。午後平曲。そして坐禅会。活発ですね。2/14
- 今日はお釈迦様の亡くなった涅槃の日。御詠歌講中の方々と皆と一緒に御詠歌。イス坐禅も。そして恒例の太田博子さんのハーブ演奏。土曜講座合同で菊地玉雲さんの朗読劇「槍の小輔」。お見事でした。長時間皆様もご苦労さまでした。三十五人。客殿では平曲十七人でした。お釈迦様の日は、いつも御詠歌の方々の御奉仕  
2/15
- 禅センターで尺八の会、夜。2/16
- 今日は私の八十歳の誕生日。鎌倉の修行から帰ってきて、五十年。やっと五十年。ありがたい事です。2/17
- 虎ノ門病院で定期検査報告を聞く。異常ナシだが、カテーテル検査をしておくとのこと。室町・砂場でそばいただく。初めて。2/19
- 鎌倉食を学ぶ会で建長寺へ。地域活動家渡邊公子さんのふらつとカフェ・食事支援の話と、建長汁を作って食べる会。禅と食事をする。七十人 2/21
- 西東京臨済会新年総会。八王子鶯啼庵で二十四人。若い人元気。2/23
- 芸大、げんごろう劇団、菅井さん、会場の下見に来る。2/24
- 八十歳の記念に淑子さんとマレーシア二泊四日の旅。イスラム・ヒンズー・中華、アジア文化混交の国。2/25〜28
- 帰国した日の夜、土曜坐禅会。十三人。2/28
- 八十歳をやつと迎えました。どうにかここまで来ました。あと、どれだけ出来るか正直心配です。でも、やらねば。皆さん、よろしく頼みます。

ペット供養のお墓を  
新設致します

お寺の周辺でも犬のお散歩をされている方が多く見受けられます。ペットの動物たちが、かけがえのない家族の一員となつて  
いる方も多いのではないのでしょうか。

この度、一部の檀信徒の皆様からお話し  
もいただきておりました動物供養塔（ペッ  
ト供養塔）の新設を決定致しました。

基本的には檀信徒用の施設と考えており  
ますが、対象の間口をどこまで広げること  
ができるのか、納骨料や使用料をどうして  
いくかなど、細かな部分はこれから吟味し  
て、七月の盂蘭盆にはお知らせしたいと考  
えております。続報をお待ちください。



写真はイメージとなります

# 宗禅寺 毎月の活動

## — お寺で本当の自分に気づく —

- 朝粥坐禅会…… 毎月第一日曜日 朝6時～9時 坐禅後に禅の食事作法に則ってお粥をいただきます。鐘を撞きながら般若心経読経。ご予約ご不要です。4/5 5/3 6/7 7/5
- 土曜坐禅会…… 毎週土曜日 子供:18時～19時 大人19時半～21時 足にご不安の方には、イス坐禅もごさいます。※子供坐禅は要予約にてお願い致します。
- 彼岸早朝坐禅会…… 3月17日(火)～23日(月)毎朝6時～7時。暁鐘を撞いて読経。ご予約ご不要です。
- 土曜講座…… 毎月1回開催の公開講座。毎回13時～16時。地域文化と一緒に学びます。
- 写経会…… 毎月1の日(1日、11日、21日)13時～15時般若心経写経。支度片付けは全員で。
- 鎌倉流御詠歌…… 毎月第1第3火曜日13時半～15時ホトケのココロを歌に乗せて 指導:高井淑子
- 手打ちうどん教室…… 現在2クラス開講中。各クラス月1回。講師:島田辰夫先生
- いきいきヨガ…… 毎月第1第3木曜日10時～11時 予約不要¥500 要ヨガマット、水分補給飲料  
講師:園部多恵子さん <https://www.instagram.com/tae.yoga/>
- リアルてらこや…… 毎月第2土曜日午前中&毎月第4水曜日午後2時～7時半(小学生は4時半まで)  
土曜日はお寺客殿、平日は裏の第二駐車場隣の「みんなの家」にて開催。  
主催:らいむぎハウス 問い合わせ090-5542-6159(水野義裕)  
子どもたちの学習支援、居場所づくり、こども食堂。ボランティア募集中。
- 一部平家…… 平家琵琶を聴く会。4/11,12午後1時～4時。5月お休み。6月から日程変更  
第2日曜日 第3土曜日10時半～16時開催 問い合わせ:鈴木孝庸090-1267-0864
- サウンドバス…… クリスタルボウル、チベタンボウルの音色の中で静かに横たわるリラクゼーション  
です。原真弓090-4392-7133 4/17,5/15,6/19,7/10 いずれも午前10時～11時15分
- 木彫教室…… 毎月第1第3土曜日 13時～16時 講師:新井達矢先生 見学可能 仏像や  
能面を彫ってみませんか? 月謝5,000円(道具、材料費は要別途)  
新井達矢先生ブログ <https://ameblo.jp/tapazya-1982/>
- 宗禅寺俳句会…… 毎月1回(主に第3月曜日13時半～15時半頃)。  
問い合わせ:中野つたえ 042-554-2444
- 尺八吹禅の会…… 毎月第1第3月曜日 19時半～21時頃 坐禅15分、練習60分  
問い合わせ:坂井陵童 042-554-3273
- 将棋愛好会…… 毎月第3日曜日13時半～16時半 老若男女問わずご参加下さい。お子様の  
御参加も大歓迎です。 問い合わせ:新井政昭 090-3089-3011
- ▲新聞サロン…… 毎月第4土曜日13時～14時 新聞を使って自分の世界を楽しく広げましょう。  
お子様のご参加大歓迎。要予約 鹿野川喜代美 042-554-7343 090-6549-0751
- ▲竹々(ちくちく)会…… 毎月第2水曜日 第4金曜日10時～16時 みんなで縫い物をする集まりです  
問い合わせ:根岸か代子
- ▲介護予防体操…… 健康体操をみんなで一緒に行います。毎週金曜日14時～16時。
- ▲ポコアポコ…… 羽村不登校児童の親御さんの会。定例会を第3土曜日午前中に開催。

○薬師講中・寺子屋委員会・護持会・女性サンガの会 —— 活動中です ——

○禅センター・みんなの家 ご使用下さい

□各会の会場:●宗禅寺 ○禅センター ▲みんなの家・学び舎

### 土曜講座のお知らせ

毎月一回土曜日に開催です。いろんな方をお招きして、地域の今と歴史を勉強をしていきます。お茶代として三〇〇円のご負担をお願い致します。学生さんは無料です。檀家さんに限らず、どなたでもご参加できます。

#### ◆第百十三回 四月二十五日(土)十三時～十六時

「中里介山忌に寄せて」

イス坐禅・般若心経 住職 高井 正俊  
講談「大菩薩峠 第四話『合の山』」  
講談師 菊地 玉雲 師

「中里介山に学ぶ」

宗禅寺文庫長 島田秀男さん

#### ◆第百十四回 五月九日(土)十三時～十六時

イス坐禅 住職 高井 正俊  
講談「花しようぶ」  
講談師 菊地 玉雲 師

「劇団身体げんごろうで表現するもの」

劇団身体げんごろう主宰

東京藝術大学 菅井 啓汰 さん

#### ◆第百十五回 六月十三日(土)十三時～十六時

イス坐禅 住職 高井 正俊  
講談「新・平家物語 第九話『みちのく』」  
講談師 菊地 玉雲 師

「リアルてらこや五年目を迎えて」

らいむぎハウス代表 水嶋 恵子 さん

### 鎌倉禅研究会のお知らせ

鎌倉建長寺で行っている禅の公開講座です。ご予約ご不要。建長寺入口で入山料五〇〇円、研究会会場で資料代五〇〇円を納めて下さい。会場でお会いしましょう。

#### ◆第百十九回 三月二十七日(金) 会場 建長寺

「茶文化受容のなかの南浦紹明  
—径山山茶台子伝来逸話の形成とその背景—」  
浙江工商大学講師 曾昭駿 先生

「無準師範禪師の障害と頂相」

駒沢大学名誉教授 佐藤 秀孝 先生

#### ◆第百二十回 四月十日(金) 会場 建長寺

「瑞泉寺の史料について—悉皆調査の現場から—」  
鎌倉国宝館学芸員 坪内 綾子 先生

「中国禅宗の興起—唯一の女帝武则天の時代—」  
東京大学東洋文化研究所 柳 幹康 先生

#### ◆第百二十一回 五月二十八日(木) 会場 建長寺

「中世後期の儀礼と茶—京都芸術大学非常勤講師  
建長寺研究員 橋本 素子 先生

「戦国期 大徳寺の間書と知識  
—『寒飈嘶餘』と『活套』—」

明星大学准教授 芳澤 元 先生

#### ◆第百二十二回 六月十七日(水) 会場 建長寺

「明治期居士禅の展開(三)—保養と修養—」  
円覚寺教学部長 蓮沼 直應 師

「西田幾多郎の絶対無から時を考える」

明治大学教授 美濃部 仁 先生

※時間は午後一時開始。午後四時半終了予定です。

### 鎌倉・食を学ぶ会 in 建長寺

食のことを色々。どなたでもご参加できます。お出かけ下さい。建長寺入山料五〇〇円。資料代五〇〇円。

#### ◆第百二十二回 四月二十日(月) 十三時～十六時

「鎌倉漁師の話—鎌倉鰹と鎌倉海老—」  
長四郎綱十代目網元 加藤 彰一さん

「時代食講座—鎌倉時代の味再現—」  
時代食研究家 山田 雅子 先生

#### ◆第百二十三回 六月二十二日(月) 十三時～十六時

「称名寺僧は何を食べていたか?」  
—特別展『国宝に見る薬と食べ物』から—」  
元金沢文庫長 山地 純 さん

「鎌倉の食育」  
鎌倉市芸術文化振興財団理事長 牧田 知江子 さん

### 【平家物語を平家琵琶で聴く会】

毎月第二土曜日、日曜日に宗禅寺客殿で開催  
四月十一日(土) 四月十二日(日)

午後一時から四時頃終了予定 参加費五〇〇円

※六月より新しく始まります。十時半～十六時半

・六月十四日(日) 六月二十日(土) 平家物語巻第一

演誦 前田流平家琵琶

鈴木 孝庸 荒井 今日子

問い合わせ:鈴木孝庸090-1267-0864